唱導寺だより

創刊号
2017.6月

お寺はお葬式や法事をするだけの場所でしょ？
いえいえ違います！お寺はけっこう色々やっています。
ご縁をいただいた皆さまにもっとお寺のことを知ってもらいたくて
発刊してみました。ぜひご愛読ください。

日蓮宗
延宝山
唱導寺

www.shoudouji.org

今号の言葉

「世界がぜんたい 幸福にならないうちは 個人の幸福はあり得ない」

宮沢賢治さんの言葉です。宮沢賢治さんは大変熱心な法華経の信仰者でした。この言葉はお釈迦様や日蓮大聖人の御教えを分かりやすく表現してくれています。自分の幸せだけを求める先に幸福はありません。他の幸せに尽くす行為は一見遠回りに感じるかもしれませんが、その中にこそ自身の幸福の道が開けてくるのです。

賢治が現在の岩手県花巻市に設立した私塾「羅須地人協会」

茶道教室 裏千家 のお知らせ

唱導寺では木曜日(月三回)に茶道教室を開催しています。指導するのは住職の母である菅野和子(茶名は宗和)です。少人数でアットホームな教室です。

年に二~三回のお茶事も行います。時間は午後五時~八時で皆さん自分の来られる時間にいらっしゃっています。月謝は二千円です。

今号の一枚

現在の本堂建立時の棟上げ式の様子です。開山上人を中心に信徒の皆さまの篤い信心により現在の本堂が建立されたことを感じる一枚です。

当寺住職による「海應コラム」Vol.01

実は十年以上前から「お寺の機関誌を作りたいな~」と考えていました。しかし、残念なことに私は中々腰が重い。しかも、不得意分野。いつしか「機関誌を作りたい」という意識すら、どこかにしまってしまいました。そんな折、子供達が通う学校の保護者会活動のお手伝いをする中で、今回発刊のご助力をいただいたラ・シードさんとのご縁をいただきました。これはご神佛からの「そろそろやれよ!」というサインと感じ、重い腰を上げた次第です。

宗教離れ・寺離れと言われて久しいですが(これは我々生臭坊主がいけません)、その一方でスピリチュアルやパワースポットが話題になる時代です。科学や理屈では埋められない心の隙間が間違いなくあるのです。

お釈迦様の教えは、一見マイナスと思える事象の中からプラスを取り出させてくれます。99%マイナスでもその奥の方から1%のプラスを取り出す。それによりその事象の価値は大きく変わると共に人生が変わってきます。その教えや空間に触れてもらえるのがお寺、特にお題目のお寺です。何かに行き詰った時、心が固まってしまった時、是非お寺にいらしてください。1%探しを一緒にしましょう。お釈迦様のおはからいに気付くはずです。

不定期ですが、これからも「唱導寺だより」を通じてお寺の情報を発信していきますので、捨てる前に(!?)読んでください！

唱導寺だより 創刊号

発　行◆平成29年6月18日

発行者◆日蓮宗延宝山 唱導寺
住職　菅野　海應
神奈川県横浜市港南区日野中央1の6の34
電話:045(842)2955
FAX:045(841)9600

ホームページ:www.shoudouji.org/

まずは皆さんに当寺の成り立ちをご紹介いたします。

唱導寺の成り立ち

唱導寺発祥の地は現在地ではなく、茅ヶ崎市浜之郷というところです。（こちらは現在当寺とは別の住職が守っていらっしゃいます）

安永四年（一七七五）五月に地頭大岡次郎兵衛が邸宅を寄付し「唱導庵」というお堂を創建しました。境内は東西に二十間、南北に十五間二分、面積三百十九坪とありますから中々の広さだったようです。

建立中の本堂

時代が流れ当寺の開山上人である行智院日教上人（菅野正道上人）が唱導庵の住持となり、昭和三十年に現在の地に唱導寺別院を建立したのが現在地での始まりです。

開山当時 現在お寺に上る階段

日教上人は行学二道に精進され、特に加持祈祷に関しては類いまれなる資質を持たれた方でした。また同時に日教上人の妻であり唱導寺開基でもある行道院殿妙香日貞大法尼（故　菅野かほる）の慈悲深く篤い信心も加わり、お題目流布の道場として悩み苦しむ方々や道を求める方々の燈明となり、次第にご信徒さんが増えていきました。

昭和四十二年には「月山教会」として日蓮宗より承認され、昭和四十四年には神奈川県より宗教法人の承認を得ました。そして昭和四十六年に日教上人を開山上人とし「宗教法人　唱導寺」と寺号公証をいたしました。

開山当時 鎌倉街道より見た本堂

お寺には山号というものがあります。唱導寺は山号を「延宝山」と号します。これは、お寺の下に鎮座されています庚申塔建立が「延宝八年」と記されていますので、そこから「延宝山」という山号にされたのでしょう。

昭和四十二年に現在の本堂、旧客殿を建立。昭和五十四年に第二世　行法院日龍上人（菅野海成上人）が法灯を継承し、昭和五十六年に現客殿庫裡を建立。平成九年に檀信徒会館を建立し現在の伽藍となっています。

開山日教上人、第二世日龍上人ともに、日蓮宗大荒行堂五行皆伝（五百日お篭り修行）の大験者であり、修法布教を中心にお墓を持たない当寺をここまでされたことに感服いたします。

平成十二年、日龍上人遷化（お亡くなりになること）に伴い、不肖菅野海應（行慈敬院日祥）が第三世の法灯を継承し現在に至っております。

当寺は開山上人の頃より、ご先祖供養は勿論ですが、生きている方々と向き合い、共に悩み祈るお寺でありました。これからもお題目信仰による三世（過去世・現世・未来世）に通じる救いとお導きを皆さまと感じながら共に信仰の道を歩みたいと考えています。

唱導寺の年中行事

1月　新春祈祷会

元日の午前六時・十一時・午後二時。二日・三日は午前十一時・午後二時に日蓮宗修法師のお上人方のご出仕をいただき、法水に身を清め、参拝者の皆さまの一年間の安泰開運をお祈りします。三が日で六百名ほどの皆さまがご祈祷を受けにこられます。新年は唱導寺で祈りの世界を体験しましょう。

1月　総本山身延山久遠寺新春参拝

新年を迎え日蓮宗総本山に初参拝を行います。本年は一月二十二日（日）に参拝しました。日蓮大聖人は「たとえ何処で死のうとも私のお墓は九年間すごした身延山に建てなさい」と遺言され、そのお言葉に従い今も御廟（お墓）は身延山中にあります。年頭に日蓮大聖人にお会いしに行く大切な参拝です。上大岡からバスで日帰り参拝です。

2月　節分厄除け・方除け祈祷会

節分前後の週末に新年度の厄除け・方除けの祈祷会を行っています。本年は二月五日（日）に行いました。開山以来唱導寺の住職は易の鑑定を行いますので、それをもとに厄年の方には「厄除肌守」、各家の年中無難を祈る「方除守」を授与いたします。また、近年は参拝者の方々と共に「水行」を行っています。是非、ご参加下さい。

3・9月　春季・秋季彼岸供養会

春分の日・秋分の日の二回、彼岸卒塔婆供養会を行っています。毎回本堂や客殿に入りきれないほど沢山の皆さまのお参りをいただいています。ご先祖様が一人でも欠ければ私達は存在しません。そんな命のリレーに感謝をして菩提を祈り、今の自分を見つめ直す集いです。

4月　大黒天神祭

大黒様は皆さまご存じの通り、福の神様です。大黒様を家や会社や店舗などにお祀りし、ご守護をいただいている皆さまが大黒様のご神体を年に一度お寺に持参され一年間の垢を落とし、さらなるお守りを頂く為の集いです。大黒様のご縁日である「甲子の日」に行います。本年は四月七日に行いました。

5月　七面山登詣修行

身延山の裏手に鎮座する七面山に登山します。本年は五月十三～十四日の一泊二日で行いました。七面山はお題目を信仰するものを守るとお約束された「七面大明神」がお住まいになる霊山です。登山には約四～五時間かかります。足腰が元気なうちしか行けません！是非一緒に七面大明神様のご守護を頂きましょう。ご来光は最高です。

7月　盂蘭盆供養会

毎年七月十二日に行います。午前中は新盆の皆さまと新盆供養会を行います。午後は盂蘭盆施餓鬼供養会を行います。お盆の供養には「普回向」が必要不可欠です。その為に全ての魂の安穏を祈る施餓鬼供養を行います。ご先祖さまだけではなく、全ての魂の安穏を共にお祈りいたしましょう。

7・8月　焙烙灸祈祷

古来より暑気封じとして伝わる祈祷法です。頭の上にお皿のようなものをのせ、その上にもぐさ（お灸）をのせ、頭のてっぺんにある百会というツボを刺激しながらご祈祷をします。夏バテ防止・身体の活性化・精神安定に効果があります。通常は夏期土用丑の日に行うものですが、当寺では七月十八日・二十九日、八月第一土曜日・八日・十八日に行っています。焙烙灸祈祷で暑い夏を乗り切りましょう。

10月　日蓮大聖人御命日報恩会式

弘安五年（一二八二）年十月十三日にご入滅された日蓮大聖人のご遺徳を偲び、報恩の一日を過ごします。一年に一度だけ日蓮大聖人ご直筆ご本尊のお開帳を行います。本年は十月十五日（日）に開催いたします。美人講談師として有名な一龍齋貞鏡さんによる日蓮大聖人御一代の講談もありますので、是非ご参加ください。

12月　大洗供養会

毎年十二月二十三日（天皇誕生日）に行います。

皆さん年頭には神社仏閣に初詣をして、一年間のご祈願をする方が多いと思いますが、二年の終わりにしっかりとお礼参りしていますか？　人間同士も何かお願いをしたらお礼をするのが当たり前。ご神佛と私たちの間も同じです。大洗供養会はご神佛に対しては一年間のお礼を、ご先祖様に対しては一年間締めくくりのご供養をする集いです。地味ですが大変意義深い集いです。

以上が唱導寺の年間行事です。ご不明な点はお気軽にお問合せください。この他に毎月の月例行事がありますが、それは紙面の関係上次号にご紹介をしようと思います。是非、皆さまのご参加をお待ちしております。